

海神会だより

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局

ホームページ<http://www.fukae.org/>のご案内:最新の情報が随時追加されています。ぜひご覧ください。

学部長就任から1年半を過ぎて

神戸大学 大学院 海事科学研究科長
神戸大学 海事科学部 学部長
小田 啓二



平成21年4月に不安のまま引き受けることになりました学部長／研究科長としての職務を振り返っておきたいと思います。よく言われるような「あつという間」ではなく、多くのエネルギーと時間を費やした1年半だった、というのが正直な気持ちです。それまで付き合ってきた分野とは異なる世界(海運界や大学執行部)や各種団体への挨拶回りが公務の始まりで、その後は、引き継いだ案件(人事手順の整理)の処理や学部内運営体制の整備に約半年かかってしまいました。この間、学部内教育研究組織の見直しを続け、教授会構成員の意見募集を経た夏頃に、ようやく私の任期中の改革方針の骨子をまとめました。「神戸大学の真の一員になる」という目的を達成するためには、これまでの船員教育カリキュラムを見直し、近年の海運界の状況の変化に対応し、船社や社会が求める能力を有する「高度海事技術者」を養成するカリキュラムに変更するとともに、「海に開かれた総合大学」の中で輝くために、学科構成を見直すことにしました。

この構想は平成21年10月のホームカミングデーにおける「Quo Vadis, 海事科学?」と題した説明会や、平成22年度の海神会総会(5月)、東京(6月)・名古屋(7月)での支部総会において皆様にご説明申し上げました。会合終了後には多くの方々からご賛同のお言葉を頂戴し、安堵するとともに改革実現に向けたこれからの苦難を覚悟しました。いずれの機会でも、懇親会だけでなく、2次会、3次会とお付き合いさせて頂き(決して「引っ張り回された」とは思っておりません)、誠に有難うございました。この時の激励が今の私の原動力になっております。

国立大学は6年前の法人化後、それまでの唯我独尊の姿勢では通用せず、「社会に開かれた大学」でなければならない時代と

なっています。私たちの最大のステークホルダーである同窓会は、大学運営に大きな影響を与えます。上記総会等の懇親会では、いつも「海神会は(シャドーキャビネットならぬ)『影の教授会』である」と話していましたが、それは冗談ではなく正直な気持ちです。

学部教育研究組織検討については、およそ1年の議論を経て現在フェーズ3にきており、そろそろ私たちの原案をまとめる段階にあります。統合後偏差値が改善され、総合大学の1学部として個性を発揮しなければならない状況になった今、私たちは、「海洋に関わる事象は相互に密接に関連していることから、海洋立国を支える人材には、多岐にわたる分野につき総合的な視点を有して事象を捉えることのできる幅広い知識や能力を有する者を育成することが重要である。(海洋基本計画)」という社会の要請に応えるためにも、東京の大学や工学部とは一味異なった「特徴ある総合学科の創設・整備」を目指すことにしています。

深江に赴任して25年(院生時代に商船大出身の後輩と深江に飲みに来るようになって28年)の間の観察から、「気概がある」、「集団の中で誰とでも付き合える」、「指示すれば(全く知らないことでも)何かしてくる」、「集団の中で一番=トップになろうとする」等の特徴があると見ています。この「商船大のスピリッツ」を活かすためにも、「しっかりとした技術を備えた『経営者』」や「組織やブランドを動かせる総合技術者」を養成することを目標にしたいと考えています。

原案がまとまり次第、学外の専門家や船社・関連団体の意見も伺う予定にしています。勿論「影の教授会」メンバーである海神会の皆様のご意見も頂戴したいと思いますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご案内と予告 平成23年度海神会理事会・総会・懇親会の日時、場所が決まりました。

日時:平成23年5月21日(土)

理事会会場:学術交流棟1F SC室、14:00~15:00

総会会場:コンファレンスホール 15:00~16:30

議題:平成22年度収支決算、平成23年度予算、活動報告など

懇親会:学術交流棟入口ホール 16:30~18:00

尚、当日は深江祭と同時開催です。

平成23年の第6回神戸大学ホームカミングデーは10月29日(土)です。

海神会評議会も上記と同会場にて

当日13:00~14:00を予定しております。

どうぞお楽しみにしてください。

参加申込先

同窓会総会及び懇親会に出席される方はFAX又はメールにて5月7日までにご連絡いただきますようお願い致します。

TEL/FAX: 078(431)6439 E-MAIL: almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

同窓会の活動



平成22年度 第7回総会式次第

開催日時:平成22年5月15日(土) 16:00~17:30

開催場所:兵庫県民会館 11階 パルテホール

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人の選出
5. 議案

第1号議案:平成21年度事業報告、収支決算及び監査報告について

第2号議案:役員(理事、会長)の改選について

第3号議案:平成22年度事業計画及び収支予算案について

6. 新会長挨拶
7. 小田啓二海事科学研究科長より海事科学部の現状について
8. 各支部の活動報告
9. 事務局報告(叙勲者の方々の紹介)
10. 閉会

平成21年度 海神会 収支決算書

(単位:円 平成21年4月1日から平成22年3月31日迄)

科 目	21年度決算額	21年度予算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	6,920,000	7,800,000	△880,000	
2.雑収入				
受取利息、寄附、その他	107,888	510,000	△402,112	
当期収入合計(A)	7,027,888	8,310,000	△1,282,112	
II.支出の部				
1.事業費				
総会経費、会誌発行、送料等	2,673,545	3,500,000	△826,455	20、21年度2年分
HP維持、クラス、学級支援金等	1,394,293	1,650,000	△255,707	
関係団体、支部支援金等	871,905	1,110,000	△238,095	
小計(a)	4,939,743	6,260,000	△1,320,257	
2.管理費				
人件費、会議費、交通費等	1,448,500	1,230,000	218,500	
印刷費、通信費、消耗品等	106,344	200,000	△93,656	
事務費、光熱費、雑費等	276,526	250,000	26,526	
小計(b)	1,831,370	1,680,000	151,370	
3.退学者への会費返却等(c)	250,000	0	250,000	
当期支出合計(B=a+b+c)	7,021,113	7,940,000	△918,887	
次期繰越収支差額(C=A-B)	6,775	370,000	△363,225	
当期余剰金処分案	平成21年度			
平成20年度前期繰越金	3,391,853			
当期繰越金	6,775			
次期繰越金	3,398,628			

※収支決算書並びに予算書に於いて疑問点がありましたら事務局までお問い合わせください

平成22年度 海神会 収支予算書

(単位:円 平成22年4月1日から平成23年3月31日迄)

科 目	22年度予算額	21年度決算額	差 異	備 考
I.収入の部				
1.会費収入	7,300,000	6,920,000	380,000	
2.雑収入				
預金利息、寄附、その他	10,000	107,888	△97,888	
当期収入合計(A)	7,310,000	7,027,888	282,112	
II.支出の部				
1.事業費				
総会経費、会誌発行、送料等	1,600,000	2,673,545	△1,073,545	当年度分のみ
HP維持、クラス、学級支援金等	1,790,000	1,394,293	395,707	クラス5、15、25、35期生
関係団体、支部支援金等	1,290,000	871,905	418,095	神大友会会費等
小計(a)	4,680,000	4,939,743	△259,743	
2.管理費				
人件費、会議費、交通費等	1,650,000	1,448,500	201,500	
印刷費、通信費、消耗品等	180,000	106,344	73,656	
事務費、光熱費、雑費等	320,000	276,526	43,474	
小計(b)	2,150,000	1,831,370	318,630	
3.予備費(c)	480,000	250,000	230,000	退学者への会費返却
当期収支合計(a+b+c)	7,310,000	7,021,113	288,887	
当期支出予算差額(B=a+b+c)	7,310,000	7,021,113	288,887	
次期繰越収支差額(A-B)	0	6,775	△6,775	

平成21年度 海神会 特別会計 収支決算書

(単位:円 平成21年4月1日から平成22年3月31日迄)

科 目	21年度決算額	21年度予算額	差 異	備 考
1.収入の部				
預金利息その他	129,995	100,000	0	同窓会基金として移管(注)
小 計	129,995	100,000	29,995	
前年度繰越収支差額	32,841,430	32,841,430	0	
合計(A)	32,971,425	32,941,430	29,995	
2.支出の部				
学生自治・厚生・予備費	0	1,700,000	△1,700,000	
合計(B)	0	1,700,000	△1,700,000	
次期繰越収支差額(A-B)	32,971,425	31,241,430	1,729,995	

特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである

(注1) ¥ 28,000,000円は基金として置くものである

(注2) ¥ 4,706,314円は旧神船大学生自治会の処分財産として大学から海神会に移された預かり金であり、海事科学部からの要請に基づき、海事科学部学生の自治と厚生関係を目的としてこの預かり金の金額を上限として収支するものである

(注3) 平成20年度までは、基金の部分と預かり金の部を別々のものとした計算書に成っていたが平成21年度からは合わせた

平成22年度 海神会 特別会計 収支予算書

(単位:円 平成22年4月1日から平成23年3月31日迄)

科 目	22年度予算額	21年度決算額	差 異	備 考
1.収入の部				
預金利息その他	100,000	129,995	△29,995	
小 計	100,000	129,995	△29,995	
前年度繰越金	32,971,425	32,841,430	129,995	
合計(A)	33,071,425	32,971,425	100,000	
2.支出の部				
学生自治・厚生・予備費	1,700,000	0	1,700,000	
合計(B)	1,700,000	0	1,700,000	
次期繰越収支差額(A-B)	31,371,425	32,971,425	△1,600,000	



第5回神戸大学ホームカミングデイへのご参加 ありがとうございました



神戸大学大学院 海事科学研究科 教授
放射線エネルギー応用科学
広報・社会交流推進委員会

山内 知也

おそらく参加していただいた皆様の中にすごい「晴れ男」が何名かいらっしゃったのだらうと想像します。接近すると報道されていた台風14号の影響もほとんどなく、第5回神戸大学ホームカミングデイを無事開催することができました(2010年10月30日)。参加していただいた皆様、準備の段階から色々とお協力していただいた皆様、そして記念講演を快諾してくださいました佐々木真己様にこの場をお借りして深くお礼を申し上げます。

学部企画の冒頭で、「かもめ会」への感謝状が小田研究科長より贈られました。同会には海事博物館の運営においてもお世話になっておりますが、今回は深江キャンパス内と周辺の整理・美化活動についての感謝状でした。ひどく荒れ果てていた東門から高橋川にかけての43号線の側道がいつの間にかきれいになっている、とぼんやりとは思っていましたが、全ては「かもめ会」の皆様のお陰でした(一職員として放置していたことを非常に恥ずかしく思いました)。

小田研究科長からの学部・研究科の近況報告は、昨年度の講演「Quo Vadis, 海事科学部?」の続編でした。これから取り組もうとしている学部の改組計画の目標と中身を総体として、かつ具体的に呈示するものでした。学部や研究科の近況報告については、企画の骨格としてこれからも継続すべきだという声はアンケートにも見られました。

続いて海洋船舶画家の高橋健一画伯が描かれた絵画「進徳丸」の寄贈式が行われました。旧神戸商船大学の1期生から8期生までは進徳丸に乗船されていたと聞いております。私が知る姿は既に陸に設置されていた時代からですが、1995年の震災によってそれも撤去を余儀なくされました。その「進徳丸」がこの深江キャンパスに絵画として再びよみがえりました。高橋画伯自身も小学生時代に「進徳丸」で「宿泊訓練」をされたことがあったそうです。絵画「進徳丸」は、学术交流棟1階のエントランスホールに展示しております。

記念講演は川崎汽船株式会社の取締役・常務執行役員を務めておられる佐々木真己氏による「海運会社が求める人材像」が行われました。講演がおおよそ50分、質疑応答も50分という大変な盛会になりました。同氏は航海学科の19期生であり、1995年からの船長職を経て2007年から経営者側でご活躍されておられます。

この企画を意識したのは昨年度第4回目のホームカミングデイのアンケートを整理していた時でした。「海運界の現状など、船会社の実務担当の人の講演のようなものが欲しい」と書かれていたのです。実は私個人もこのような講演会を必要としていました。広報の立場からすると、在校生や受験生・高校生に向かって、船員になることの魅力が伝えられていないのです。漠然とした海への憧れではなく、給料のよさや、海運会社の経営者になるためのキャリアパスとしての船長・機関長の姿を広報活動・就職指導において周知させたいのですが、まず教員自身がそれを理解する必要があるという段階なのです。また、学部の改組や将来構想との関係では、重点化大学院である海事科学研究科・海事科学部を、工学部等に負けないような魅力のある「総合学科」にするために、そこで行われる船員教育のあるべき姿を明らかにしなければなりません。同時に、将来において経営や政策立案に携わる学生に与えるべき資質として必要な教育内容を明らかにしなければなりません。

ここに述べている全ての問題が解決したとは言いませんが、佐々木氏の講演によって、この二つの問題解決の方向ははっきりと決

まったと考えております。特に、「英語も含めて基本的な素養のある学生を送り出して欲しい」という質疑応答でのお答えの中に、うちの学部で行うべき教育像を見つけることができていると思っております。残念だったのは、昨年に比べると増えてはいるのですが、現役教員の参加者が期待したよりも少なかったことです。直接あの場で佐々木氏のお話を聞き、質疑応答にも参加して欲しかったです(講演録DVDをつくって回覧させておりますが)。また、現役学生にも是非とも聞かせてやりたかったと思っております。

海神会と広報・社会交流推進委員会との協力がはじまってより、もうすぐ2年になろうとしています。これまでは一緒にホームカミングデイを開催するという間柄でした。しかし、決してそのような枠にとらわれることなく、OBの皆さんの声を、直接現役学生に伝えることが出来るような仕掛けを、あれもこれもとつくり出したいと考えております。そのためにも、今後ともよろしくご教授くださいますようお願いいたします。

〈当日行ったアンケートの抜粋詳細は海神会Webページに掲載予定です。〉

問1. キャンパス全体の印象はいかがでしたか?

“かもめ会”の協力に依るのかも知れないが、学内が奇麗である。／明るく整理されたキャンパスになりつつある。／学生数が少ない? キャンパスに活気が不足している様子。

問2. 今回の講演会を中心にした企画はいかがでしたでしょうか?

進徳丸の絵画寄贈も講演会もともに充実していて良かった。／現場での経験からの話で面白かった。／特に、佐々木講師の話は、マリン志望の学生には貴重である。現役学生の参加は無理なのだろうか?

問3. 学部企画としてどのような内容を希望されますか?

ご提案でも結構です。
現役学生のために、OBと接触する企画は?／会社に勤務しているOBの講演(今日のような)。／特になし、毎回興味深い話で満足している。／最近の研究内容を短時間で数編を解り易く。

問4. 学生・院生に向けてメッセージをお願いいたします。

国際感覚も世間感覚も早くから身につけて欲しい。他者との関わりに励んで頑張ってください。／海運でも他の業界でもそのほとんどで国際性が求められる。英語や他の外国語は当然必要であり、もっと励む必要がある。

問5. 学部および教員に望まれることがありましたらご意見をお願い致します。

学部の新しい目標達成に期待している。／若い世代の出席が少なく、連絡方法を改善する必要があると思います。／教職員に海事社会の現場を見聞する機会を増やし、学生にフィードバックさせて下さい。海事社会の将来に不安はないので、もっと自信を持って教壇に立ち、学生にも自信を植え付けて下さい。

問6. その他、ご意見、ご感想、ご希望などをお書き下さい。

講演会の後の質疑の中身に将来を考えさせられるものが多い有り。／内航等も含めて、広く日本船社に卒業生を送り込む努力をして欲しい。学部の理想である、経営者になる為には、広く散らばらねばならない。



関西支部だより

恒例の関西支部主催の第28回白鷗杯争奪ゴルフコンペが平成22年10月8日(金)、垂水ゴルフ倶楽部にて開催されました。前日からの天気予報では、雨天の予想でしたが、晴れ男がいたのでしょう、一時期のパラパラ程度の雨で皆さんプレイを終了されました。連絡不十分で、天気予報の悪さか参加有志は24名の少ない人数でしたが和気あいあいと、日頃鍛えし腕前を発揮されました。競技終了後、倶楽部ハウスにて表彰式と懇親会が執り行われました。

さて、成績はダブルペリアル方式で、順位は決定され次の通りです。栄えある優勝者 笹田 勲(11E)GROSS 91 NET 71.2でした。準優勝者は惜しくもGROSS 92, NET 74の宮嶋 知昭(1N)以下3位は田中 宏樹(6N)NET88でベスグロ賞も併せて獲得されました。4位は小林 通宏(10E)、5位は舟橋俊一(14E)その他ドラコン、ニヤピン賞、ブービー賞、当日賞等、開催担当者の配慮により賞品もれの参加者全員には、参加賞が配られプレーを存分に楽しんだ一日を終えました。(敬称略)

毎回各方面から支援を頂いており、此処に紹介と御礼を申し上げ

げます。ロマン会様から毎回多額の寄付を頂き、優勝レプリカを宮嶋/松原様(1N)から贈呈されています。その他余田様(5N)から有馬大黒屋佃煮セット、三浦様(1E)からMCCカレーセット、前回優勝者徳井様(8N)から寄付金を頂戴し、有難う御座いました。

来年度は平成23年秋に開催する予定ですので奮って参加お願いします。



絵画「進徳丸」の寄贈式

2010年10月30日の第5回神戸大学ホームカミングデイに於いて海洋船舶画家 高橋健一画伯 が描かれた旧神戸商船大学のシンボルである「進徳丸」の絵画の寄贈式が行われました。その帆船「進徳丸」の色鉛筆による絵画は精密、且つ繊細な絵で、深江のキャンパスに絵画として再び蘇り、学内学術交流棟1階のエントランスホールに展示される事になりました。船体構造、機装品、海面の様子等実に精密に出来ております。一見の価値がありますので、キャンパスに来られる機会があれば、是非ご覧下さい。

本船は、ご承知の通り、1924年2月25日神戸三菱造船所にて建造され、橋高50.9メートルに達するその壮大な大型帆船の勇姿が偲ばれます。

因みに現在活躍中する「日本丸」(二世)の橋高43.5メートルであることからその巨大さが理解されよう。

太平洋戦争中に帆船から汽船に改造され、その後1968年に旧神戸商船大学の校庭に設置された。

しかし、阪神淡路大震災でその船体は大被害を被り、解体されたが、その一部を保存する為、「進徳丸メモリアル」として残されています。



高橋画伯による絵画(進徳丸)の説明



高橋画伯作「進徳丸」

進徳丸主要諸元

所 属	文部省→運輸省
航行区域	遠洋(一級船)帆装 Barquentine型
竣 工	1924年2月25日
建 造 所	三菱神戸造船所(設計 Lamage&Ferguson Co.)
総トン数	2,518.42トン
全 長	109.1メートル
全 幅	13.41メートル
速 力	(機走時)巡航10.5ノット
主 機	三段膨張往復機関2基
機関出力	625×2基 1,250馬力
定 員	士官16名 生徒120名 属員56名
終 末	神戸商船大学構内にて揚陸後保存。 1997年、阪神淡路大震災の被害を受け解体。船体一部を深江の地に保存。



65連敗からの脱出

神戸大学海事科学部硬式野球部
部長 秋田 直也

9月16日(木)、寝屋川公園第1野球場で行われた対関西福祉大戦、5-5で向かえた九回裏の攻撃、一死三塁からバスターエンドランのサインが見事に決まり、サヨナラ勝ちを収めた。阪神大学野球連盟リーグ戦65連敗中であったわが部にとって、実に、約3年半ぶりの勝利の瞬間であった。これをきっかけに、その後、摂南大と兵庫大にも勝利し、通算3勝7敗で兵庫大を上回る5位(3部リーグ)の成績となった。決して、胸を張って誇れる成績ではないことは百も承知である。しかし、「1つ勝つことに、これほど緊張したことはない。学生たちには本当に良い勉強をさせてもらった。」とプロ野球選手であった鎌田実監督の言葉がすべてを物語ってくれているように思う。

本年秋季リーグ戦では、4年生を含めても10~12名しか集まらないといった試合がほとんどであった。こうした中で、4年生部員(林田・安井・小島・太田)の活躍には頭が下がる思いでいっぱいである。メンバー不足に悩む下級生のために、試合だけでなく、通常練習や夏休みの練習にも積極的に参加してくれた。また、2年前にさかのぼるが、元プロ野球選手の鎌田実氏を監督に迎えるという英断は、4年生の林田力君が主将の時になされた。当時の「試合に出ればコールド負けという状況から脱出したい。」「監督を迎えた結果、たとえ部がつぶれるようなことになったとしても、何もしないでいるよりはましだ。」といった議論が思い出される。

その一方で、鎌田監督には、本当に感謝の気持ちで一杯である。少し褒めすぎの感はあるものの、「この子らの野球技術は、まだまだだけど、集中力はすごいと思う。普段から監督がいなくても、人にやらされているという練習はしない。自分たちの責任において、自分たちの成長のために練習をしている。」と孫世代の部員たちと真正面からつきあってくださっている。グラウンドで自らノックを打って学生を指導しておられる姿は、71歳とは到底思えない。さらに、球場行きの交通費にも事欠く学生を、自ら運転する車で送迎してくださった

り、バット等の道具類をご支援くださったりと、お世話になりっぱなしで誠に申し訳なく思う。本年秋季リーグ戦の最終戦終了後、学生とともに涙された鎌田監督。学生だけでなく私にとっても、かけがえのない時間をすごしていることを実感させられる。

さて、来年度の春季リーグ戦は、4年生が卒業した後に残った10名での戦いが余儀なくされている。部員数を増やす努力は続けているものの、わが部にとって、苦難の道は、まだまだ続くことが予想される。再び連敗を続けることになるのか、それとも、徐々に勝てるチームに変身していくのか、私自身、とても楽しみである。

最後に、神戸大学との統合時、海事科学部硬式野球部の存続に多大なるご尽力を賜りました西田修身先生(OB会会長)におかれましては、2010年11月9日にご逝去された。誠に残念でありませんが、部員一同、西田先生のご冥福を心からお祈りいたします。



神戸商船大学柔道部 深道会員と家族の墓

平勇登先生・志井正夫先輩に感謝して、平成21年10月建立

「深道会共同墓で来世も楽しく」墓開き式典(平成21年10月10日)と墓前祭(平成22年6月12日)実施について

神戸商船大学柔道部深道会共同墓管理委員会
代表 11期航海科 岡田 敏男

深道会は、故平勇登先生のご指導の下昭和33年三期生の提唱により発足した柔道部現役学生を精神的・経済的に支援しつつ、会員相互の親睦を保つ後援会として活動を継続してきました。平成16年の神戸大学との統合後クラブ活動の場が六甲キャンパスに移り支援すべき対象を失い、近年はOB会員相互の親睦会として活動を継続してきました。

平成17年の深道会有志による東北旅行中に「深江で一諸に過した仲間で、来世も楽しく呑みたいな」の会話が発端でした。発案から5年の歳月を要しましたが、志井正夫先輩ご令室登志子様の絶大なるご協力と、深江会館館長のご理解を得て、種々困難を乗り越えた末、私どもの青春の地深江に深道会共同墓を建立できました。

認可された共同墓を末永く公正に運営してゆくために、深道会共同墓管理規定・同管理規定細則・同管理委員会規則等の原案を作成し、平成21年5月横浜で開催された深道会総会にて、深道会共同墓管理委員会の委員の選任を含めて満場一致で承認され実施に移してゆきました。

神戸商船大学OBの皆様は白鷗寮から商船大学への通学途中、高橋川を渡り阪神電鉄の踏切までの間に深江墓地があったことを覚えておられると思います。

共同墓は深江の白鷗寮と大学の間の深江墓地に建立されています。南向きで日当たりも良く母校の方角を向いています。狭い都会の墓地の中なれど精一杯の墓地面積を確保でき、洋墓方式の墓標前面には「神戸商船大学柔道部」と「深道会員と家族の墓」を刻字し、墓標裏面には「平勇登先生・志井正夫先輩に感謝して、平成21年10月建

立」と刻字しました。水鉢前面にはコンパスマークが彫られています。墓石前面両側に2基の霊標が設置され、3名の物故会員の氏名・没年月日・享年が白字にて刻字されています。また18名の一般会員は赤字にて氏名のみ刻字をしています。主墓石の左横には、過去帳・墓参記録簿収納箱を設置し墓参記録簿の他に故人の遺影・柔道部員の集合写真などを納めています。

この共同墓は、宗教・宗派を問わず、深道会員であれば、家族会員として申し込めば末代までの家族の入墓も可能です。既にお墓が決まっている方も個人会員として分骨入墓出来ます。

墓標両脇に設置している霊標の刻字は、氏名(俗名)・没年月日・享年のみとしています。墓標と霊標は全てインド黒石という上質の黒光りする石材で作られ、「カロート」と言われる納骨スペースは充分広く作られており50名分の納骨ができ、また霊標は増設することにより66名分の刻字が出来ます。



6頁へつづく



神戸商船大学柔道部 深道会員と家族の墓

墓開き式典

「墓開き」式典は、平成21年10月10日晴天の下、来賓、霊標に名前を刻字した深道会員とその家族など22名が集まり、11期航海科岡田敏男が司会を務める中、地元の浄土真宗正寿寺ご住職のお勤め(入魂)を頂きながら、厳かに執り行われました。

式次第

- 1.分骨もしくは遺品納入(カロートに分骨・遺品を納入)
平勇登先生、志井正夫先輩、加藤壮様、船原昇・ちづゑ様
- 2.墓標除幕(白いさらし布を取り除く)
墓標前面の刻字内容
神戸商船大学柔道部 深道会員と家族の墓
墓標裏面の刻字内容
平勇登先生・志井正夫先輩に感謝して、平成21年10月建立
- 3.正寿寺ご住職によるお勤め(入魂)
ご来賓の焼香:志井登志子様 重永成子様(平先生ご長女)
海神会事務局長小林通宏様
深道会関東分会長高石勝様
物故会員の焼香:6N加藤壮様ご令室晴子様
8N船原昇様・ちづゑ様ご長男宏様次女可愛様
一般会員の焼香:1E三浦敏夫様、2E喜多村輝昭様・美代子様
5N岡田一三様、5N廣田孝夫様、8E村田明様・豊子様・悦子様
11N岡田敏男・明美様、13E田中貴雄様、14N立見五十七様
14E春木仁朗様
- 4.寮歌献唱
- 5.過去帳・墓参記録簿取納箱の説明と鍵渡し
- 6.記念撮影

白鷗寮のすぐ近くで今は余り歌われることがないであろう寮歌を献唱して墓開き式典を終了し、阪神深江駅北側国道2号線沿い赤鳥居付近の日本料理店「桂」にて、昼食会(偲ぶ会)を実施しました。岡田共同墓管理委員会代表挨拶のあと三浦敏夫先輩の献杯に続き、共同墓地建立の大願成就をよろこび合い、故人を偲びつつ、制限時間いっぱい

まで昼間にもかかわらず多いに飲み語り、実に楽しく愉快的な昼食会(偲ぶ会)でした。

今年の平成22年6月12日入梅前の晴天の中、柔道部の深道会総会の行事の一環として、来賓として神戸大学海事科学部学部長小田啓二様をお招きし、総員20名の深道会員が参加して「墓前祭」を実施しました。

墓前祭では、胸にコンパスマークと商船大のネーム刺繍入り柔道着2着を「カロート」と言われる納骨スペースに収め、読経の流れの中で順次焼香を済ませた後清酒で献杯をし寮歌を献唱しました。これにて、前回の「墓開き式典」と合わせて共同墓建立の一連の式典を終了しました。

当日はその後、神戸大学所属練習船「深江丸」に場所を移して、深江丸矢野吉治船長のご好意により、現役柔道部学生6名を交えて懇親会そして懐かしのボンクでのお泊りとなりました。

共同墓建立に於ける費用負担

共同墓建立に要した費用は、初期費用及び今後10年間の継続的管理費用をプールして、大略2,700,000円でした。地区自治会の運営する墓地である為に、永代使用料・年間使用料が安く設定されていた為です。

第1期申し込みとして家族会員1単位7名7単位、個人会員1/2単位4名2単位、合計9単位となり、従って按分の結果、家族会員300,000円、個人会員150,000円の分担金となりました。

今後、会員の増加の都度、分担金が再計算されますので、以後に申し込みされる新規会員は分担金が上記の計算よりお安くなり、また初期からの会員には割戻金が発生します。

詳細については海神会ホームページをご覧ください。



神戸商船大学五期生 卒業五十周年記念クラス会

期 日:平成22年5月9日~10日
集合地:ホテル「ザ・プリンス箱根」

5期 安井 光男

新緑の息吹の箱根連山、その懐に抱かれた芦ノ湖畔、富士の眺望を誇る名門ホテルに全国から参集した。

嘗ての紅顔の美少年四十八名と其の彼と長年苦楽を共にして来た大和撫子、年は取っても美しい姥桜十四名の合計六十二名の祝いの会となる。(故人と若干名除いて五割強の出席率であった。)

午後三時の集合、部屋割り、宴席のクジ引き等をして午後四時ホテル芦ノ湖側庭に集まり、記念撮影を行う。六時に大広間に設えた八つのテーブル席に落ち着き、廣田君の司会でクラス会を始める。既に故人となった人の冥福を祈り黙祷した後、幹事長澤山君の挨拶、郷君の乾杯の音頭で宴は開始された。

会場の脇に設えた多種類の料理、飲物、嗜好品を席を離れて選択、飲む程に、食べる程に顔を崩し肩を振り会場は輻輳し、盛り上がりを見せた。卒業して半世紀は長くて短かった実感である。

宴の途中で中村君の協力で、過去のクラス会のビデオ放映があり、宴の終りに川角君の音頭で、寮歌を斉唱し、最後に司会の音頭でお手を拝借、一本締めを行うも拍手ではなく、万歳をし御苦労様の珍事が起こり楽しい一次会は終了した。

八時半から席を移して自由参加のカラオケ大会となる。「好きこそ物の上手なれ」と云う格言通りの御仁、姥桜の活躍にも驚かされた。

翌十日の朝は鶯の鳴き声に目を覚まされ、二日目の予定になり、まずはゴルフ組が出発、大箱根カントリークラブでプレイ、適度の疲労でホールアウト。観光組は大型バスにて大涌谷、湖尻から遊覧船に乗り箱根関所で下船見学、小田原駅で解散となる。自由散策を選んだ者はそれぞれの方法で一日を潰し帰途についた。

最後になりましたが、この会を行うにあたり海神会から多額のクラス会支援金を頂き、又、急に参加出来なくなった岡田一三君、中谷武久君から寄附金を贈られ、此の紙面をお借りして深く感謝と御礼を申し上げます。

【クラス会出席者】

航海科

飯田 稔 夫妻	梅室 義嗣 夫妻	古門 昭生 夫妻	児玉 常弘 夫妻
郷 拓郎 夫妻	高田 哲夫 夫妻	廣田 孝夫 夫妻	福間 和之 夫妻
青山 玄	芦沢 繁	荒木 康男	伊東 勝馬
飯塚 正樹	大神 弘	川崎 正毅	澤山 恵一
色摩 和雄	土井 研二	西端 晟	能丸 喜義
藤田 凱三	道家 求	安井 光男	余田 光男
吉川 涉			

機関科

岡室 文雄 夫妻	川角 文夫 夫妻	住本 泰三 夫妻	中村 泰 夫妻
長谷川 裕 夫妻	吉澤 秀夫 夫妻	芦田 三男	天野 俊夫
井上 義昭	山田 勝重	小田切洋三	乙守 恭治
川上 勢剛	鈴木 通夫	藤原 正巳	土橋 進
松谷 敷	宮原 東洋	森本 左門	安原 武臣
吉田 定由	吉村 耕治	寄高 進	





卒業30年記念クラス会

今般、下記のように神戸商船大学航海学科25期・機関学科25期・原子動力学科5期の卒業30年記念クラス会を開催しましたのでご報告します。

1. 開催日時：平成22年10月23日(土)～24日(日)
2. 場 所：神戸大学 海事科学部
3. 出席者：47名 4. 記念行事

代表幹事 辻 隆弘・古山 雄一

①海事博物館見学・深江丸の視察・学内散策

1980年の卒業以来はじめての合同同窓会であり、30年前の入学時と同様に、旧神戸商船大学海事資料館前を集合場所としました。「5分前の精神」よろしく定刻1400には予定者全員集合。恩師の本田啓ノ輔先生をお迎えし、35年前の入学の時と同様の場所で記念撮影を行いました。北は北海道から、また南は九州から、この日のために参集した仲間47名を数え、中には前日の22日、ばら積船の船長としてオーストラリアで下船、当日早朝に成田着、家に帰らず直接、新幹線で参加した猛者もあり30年ぶりの旧交を温めました。その後、N24期の先輩であり、帆船「海王丸」実習時のボトムオフィサーであった現深江丸船長の矢野吉治准教授(因みに「日本丸」はN23期古荘教授、当日は中国出張で不在)の案内で海事博物館と深江丸を視察し、大学の現状についても説明していただきました。30年前とは様変わりし、阪神淡路大震災を経て、大学は神戸大学に、深江丸は3世に、進徳丸はメモリアルに、白鷗寮は4人部屋から個室に、海事資料館は博物館にと変わり、時の流れを感じた次第です。



②記念植樹

大学正門を入って左側の木立の中(30年前は掲示板があり、我々の合格発表もここに張り出された)に、記念植樹を行いました。今年の暑さは格別でしたので、暑さに強いオリーブを植え、参加者一人一人鉢入れを行い、記念としました。また、在学中からクラス担任として我々を導いてくださり、86歳になられた本田先生に感謝を込めて花束を贈呈しました。先生からは「今日は皆にお会いでき、うれし」と感謝の辞が述べられ、「いつまでも元気に、活躍を祈る。」と



のお言葉があり、記念植樹セレモニーを終りました。

③懇親会

大学からチャーターバス「We love Kobe」号に乗り、懇親会場である「ホリデイ・イン・エクスプレス新神戸」へ。ホテルでは東京商船大学の同期生と合流し、合同大クラス会となりました。

懇親会では我がクラスの学籍番号トップの阿部雅之君の乾杯によりスタート。辻の進行役で時間が経つのも忘れるほどの盛り上がりを見せました。特に、入学時に撮った拡大記念集合写真の前では、30年前の紅顔華麗な美少年と現状の比較を行い、変化した自分を確認し、爆笑の渦となっていました。途中、数人の方には現況報告・ビジネスの話・趣味の話をさせていただきました。また、フィリピン出張中の山本浩司君からお祝いメールが届き、ご披露させていただきました。そして、前日までLNG船の船長実務を執っていた井筒君からは昨今の海運界のお話がありました。宴もたけなわとなり開始から3時間が経ち、出席者の中で最後の学籍番号である吉田明彦君の一本締めで中締めとなりました。最後に母校の発展と各位のご健勝とご活躍を祈念するとともに、同じ釜の飯を食った仲間の「絆」を確認し、再会を誓い、卒業30年大クラス会は無事終了しました。

④ゴルフ

翌日は黒田富治君のお世話により、神戸垂水カントリーでゴルフコンペが開催され、エンジョイされました。若々しいナイスプレー?続出だったそうです!

最後に、今回本同窓会開催にあたり、神戸大学海事科学部同窓会である「海神会」から多大なご祝儀をいただいたことに深謝し、同窓会の益々の発展をお祈りします。

以上



神戸商船大学35期生 卒業20周年記念合同クラス会 (1990年卒業)

A15 角 和芳

神戸商船大学35期生(1990年卒業)は卒業20周年を記念し、平成22年10月10日(日)から11日(月)に熱海のニューブジャホテルにおいて、合同クラス会を開催いたしました。平成22年の春頃、東京にて行われた同期生の集まりの中で案がまとまり、航海学科の安本君が中心になり計画を行い、皆で連絡を取り合った末、航海学科から12名、輸送科学学科から2名、原子動力学科から1名、計15名が集まりました。

当日、熱海は、すばらしい秋晴れになりました。12時に先発隊は、熱海駅に集合し、昼食の後、ボーリング場において、ボーリングを2ゲーム行い、学生時代と同じ様に、軽々さわやかな汗をかいた後、クラス会会場である、ニューブジャホテルに到着しました。その後、クラス会開始の18時30分まで、各自、温泉タイムをエンジョイし、日頃の疲れを癒しました。

後発隊の到着後、18時30分から、クラス会が始まりました。卒業して20年ぶりに合う仲間も多く、体型や髪型の変化に20年という月日が感じられましたが、美酒を飲み交わし、話し込むうちに、20年前にタイムトリップし、クラス会是我々を育ててくれた「白鷗寮」の宴会の雰囲気になりました。1次会后、ホテル内のカラオケBOXにおいて2次会が行われました。BOφY、Bz、サザン、加山雄三、浜シローなど、80年代後半に流行った楽曲のメロデーが繰り広げられ、三和市场の先にあった「シーウインド」状態になり、皆で久々に盛り上がりました。



翌日、「総員おこし、早朝訓練」は無く、起床、朝食のバイキングに行った後、最後の温泉タイムをエンジョイしました。その後、お互いの健康、健勝、及び再会を約束し、各自、家路に着きました。



歓迎 神戸商船大学35期同窓会 御一行様





外国航路よもやまばなし 第2回目

2. ニューカレドニアにて

ニューカレドニア島はフランス領であり、日本の四国と略同じ大きさで、その周辺はすべて珊瑚礁に囲まれ、人口は約10万その約8割はこの島で最大の都市ヌメアに住んでいる。島全体がニツケル質の土壌であり、ニツケル鉱の積み出し地として有名である。ニツケル鉱の積み出し港は島内に数カ所あるが、そのいずれに行く場合でも、一応ヌメアに入港し検疫、通関をすませ、夕方ヌメアを出港し、翌朝積地につき、おおむね沖に投錨したまま約1週間積み荷作業を行う。ある日、島の東側のモネオという積地で暇をみて、現地駐在員の案内で周辺のドライブに行き、ポネリユアンという街のレストランで食事をしておったら、店の女主人が「あなた達は日本人か」と尋ねたので「そうだ」と答えたところ、その女主人は急いで店の奥に入っていって、小柄な、おじいさん、を連れてきた。その、おじいさんは、たどたどしい日本語で「私の名前はウエイチ・ゼンジロウ(上市善二郎)」といい、彼は、明治の末期に道路工事の人夫として沢山の日本人とともにこの島にやって来た。工事が終わったら日本人は皆日本に帰っていったが、彼は現地人と結婚してこの島に残りおくのことに恵まれ、可成りの財をなして楽しく暮らしていた。やがて太平洋戦争となり、彼はフランス国籍をとっていなかったため、日本人として彼の財産は全て没収され、家族と別れてオーストラリアの収容所に入れられた。終戦となったとき釈放されたが、彼の国籍は日本であり沖縄出身であったので、沖縄に帰され、ニューカレドニアに住む家族とは別れて暮らすこととなり、ニューカレドニアに残された彼の家族は暮らしに困るようになったので、再三にわたりフランス政府に陳情し、ようやくニューカレドニアの家族のもとに帰ることができた。若い時から戦前まで約40年働いて得た土地財産をすべて失い無一文となっていたが、また出直して、今では割合大きなレストランと小型船の修理工場をもつようになり、その町の中は勿論、可成り遠く離れたところの人からもムッシュ・ゼンジロウと呼ばれ信頼と尊敬をあつめるようになった。なぜゼンジロウと言わずにゼンジロウと呼ぶのか、ときいたところ、ゼンジロウと役場に届けたが、役場の書記が間違えて受付けてゼンジロウになった由。彼には孫が20人余りいるが、なかには純然たる白人(フランス人)もいるし色の黒い現地人もいた。レストランの周辺には二ハトリが沢山放し飼いにされており、我々が食事中のときもテーブルの下を歩きまわっていた。一体二ハトリは何羽くらいいますか、と聞くと、150羽〜200羽という答えであり、その理由は、近所の放し飼いの二ハトリと混ざり合い、増えたり減ったりしているとのことで、夜になるとどの二ハトリも山の中に帰ってゆくので卵は山に行き探すとのこと、まことにおおらかで、のんびりした話であった。それ以後、ポネリユアンを通る時は、ウエイチさんをドライブに誘い随分遠くまで案内して頂くこともあったが、どこに行っても、土地の人は、白人も現地人もムッシュ・ゼンジロウといって先方から挨拶しておった。それから6年くらい経って彼のレストランを訪れたら89才でお亡くなりになっていた。

元来、ニューカレドニアの現地人は非常に悍猛であり、また人肉を食べる習慣があり、フランス領になってからキリスト教宣教師が布教に努めたため、おとなしく善良になった由、布教の初期には、宣教師が殺害されることが時々あり、これはウソかホントか分からないが、船に来た人夫がボタンのペンダントをしており彼の言うのには、彼の祖父たちがフランス人の宣教師を殺して食べてしまったので、その記念に宣教師の着ていた服のボタンをペンダントにしているとのことであった。現在の現地人は、おおらかでお人好しで、欲があまりない、しかしアルコールが入ると急に凶暴となり何をするか分からないので船では彼らに酒類をあたえないことにしておった。近くの海岸にムーニーを着た肥ったオバチャンたちがハマグリのような大きな貝をスプーンで掘っておったが、自分に必要なだけ採って鍋に入れスタスタと帰っていった。<これが日本人なら、採れるだけとって貝のムキ身にでもするかもしれないと思った次第>

神戸高等商船航海科43期生

村田 惇雄



ある日のこと積地の近くのワイリューの町の警察署長の家に招かれて豚の丸焼きをご馳走になった。所長宅にゆくと、彼は湯あげタオルを一枚腰に巻いたままで接待してくれた。ここでは、一番親しい人をもてなすには、こういう形式でやる由、こちらも気楽になり上半身裸体となつてご馳走になった。この島の珊瑚礁内は、波しづかで魚がよく釣れる。昼間は小魚を釣り夜は1メートル位のカマス、サワラ、ヒラアジが面白いほど釣れ、積荷中はおおいに楽しんだ。まさに作家、森村桂の書いてあった本のとおり「天国に一番近い島」であった。

船乗りをしていると、元日は、おおむね洋上で迎える。中では、テーブルの上のカンビンがひっくりかえるようなシケの正月もあったが、ニューカレドニアに向かう途中、ニューアイランド東方からブーゲンビル島までの間で迎える元日は、いつも海上平穏、快晴、行き会い船もほとんど見当たらず、私の最も好きな元日であった。

3. クエートにて

日本で粉セメントを積みクエートで揚げる航路に約2年間従事したことがある。クエートに向かうには、シンガポール、マラッカ海峡、インド洋、アラビア海をへて、ホルムズ海峡を通りペルシャ湾に入りクエートに至る。速力14ノットで走ると、日本を出てから約20日でクエートに着く。ペルシャ湾の暑いことは日本で想像した以上で、砂漠から吹いてくる風は顔にあたると砂があたったような感じの熱風である。酷暑のため、セメント揚げ荷作業は日中にはほとんど行われない。しかし、韓国からの出稼ぎ人夫はその暑さのなかでもほとんど休みなく働く。彼らは一年契約でクエートに来ており、一年クエートで働いたら、韓国に帰ると家が軒建つとのことで、また彼らのリーダーはすべて韓国海軍OBでよく統制がとれておりクエートでは大変歓迎されていた。クエートその他の湾岸諸国は禁酒国で船が接岸すると船内といえども禁酒であり、もし飲酒が発覚すると、ビール1本につき23万円の罰金をとられることになっていた。(これは昭和55年〜58年の話)従って、毎日アルコールを飲んでいる人は、ずいぶんこたえるらしく、わずか4〜5日の接岸で揚荷作業終わり出港するときには、禁酒解除となるので、つい嬉しくなつて、バンザーイと声をあげるものもいた。

クエートでは他の湾岸諸国も同様であるが、清水は貴重品で、特にクエートでは清水より石油の方が値段が安い。この国では石油輸出による利益は可成り国民に還元され教育費、医療費、市内の電話料、住宅費などはクエート人にかぎり無料、また食料品なども日本より少し安い。したがって、天然に湧き出る石油のお陰で生活はずいぶん楽であり、酷暑のなかで苦勞して働くようなことはクエート人は、あまりやらないので、これに代わってインド人、レバノン人、フィリピン人等がやっているようである。市内にシェラトンホテルという大きなホテルがあり、時々ここで食事をしたことがあるが、湾岸戦争のときにはイラク軍の司令部になっていたのがテレビに映っていて懐かしかった。

クエートからの帰りにはその隣のミナ・アル・アマディ港でよく燃料補給をするが補油接岸まで沖待ちがあるので、そこで沢山カマスを釣って楽しんだが、ここも湾岸戦争の時重油が大量に流れ出し、水鳥が真っ黒になっていたのが日本のテレビに写っていた。昔の船は、冷房設備もなく、ペルシャ湾での勤務は暑さのため睡眠不足となり身体をこわし、ペルシャ湾航路のことを「殺人航路」といっていやがられたが、今はほとんどの船が冷房化され、性能のよい造水器もとりつけられて、ずいぶん楽になったが、酷暑地帯であることには変わりはない。

第9号につづく